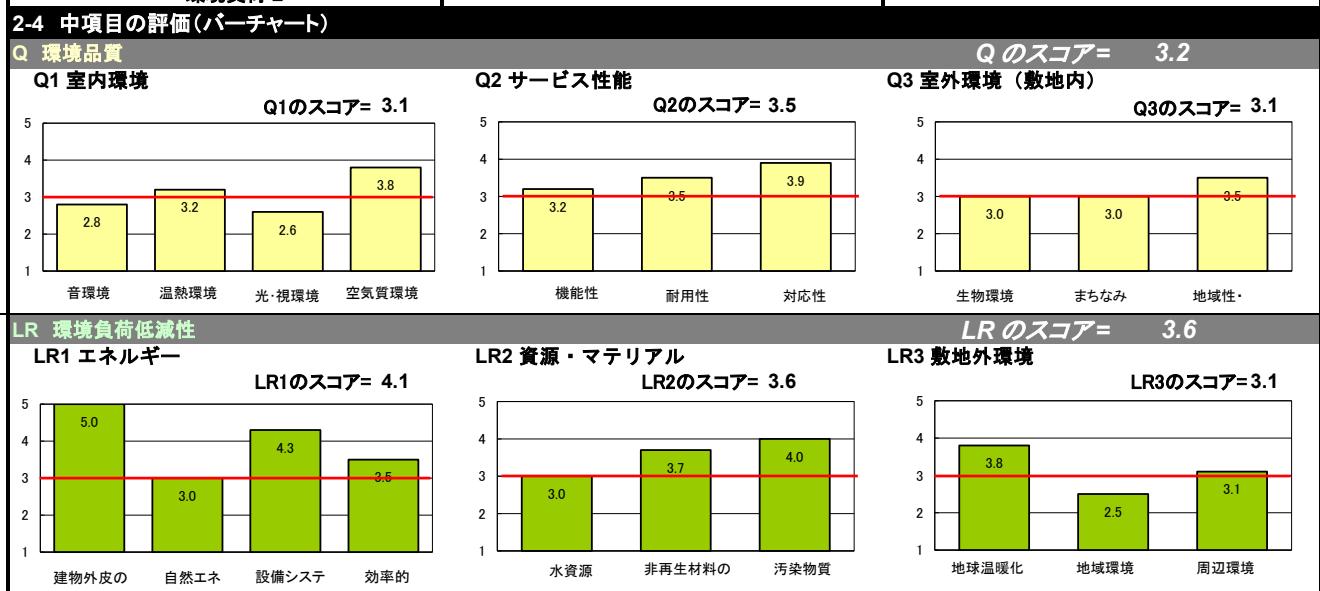
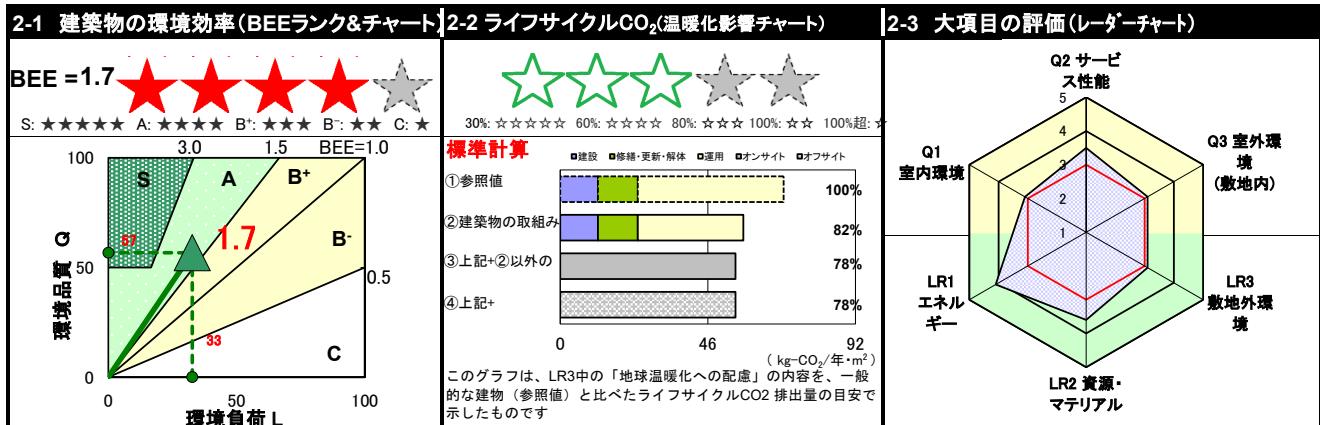


CASBEE®横浜 | 評価結果 | 5-019

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.1



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本体育大学 横浜・鶴巣台キャンパス 再開発整備(アカデミック・コア棟)	階数	地上7F、地下0階
建設地	神奈川県横浜市青葉区鶴巣田町宇町山1214番地、他	構造	RC造
用途地域	第一種中高層、第二種中高層、準防火地域	平均居住人員	3,550 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年2月 竣工	評価の実施日	2023年5月18日
敷地面積	3,617 m ²	作成者	株式会社 久米設計 鈴木章浩
建築面積	2,027 m ²	確認日	2023年5月24日
延床面積	13,324 m ²	確認者	株式会社 久米設計 鈴木章浩



3 設計上の配慮事項		その他	
総合 敷地内を積極的に緑化、省エネ機器を積極的に採用し、環境負荷の低減を図るとともに、建物の維持管理にも配慮した計画としている。			
Q1 室内環境 LowEガラスを採用するなどして外皮性能を確保、教室、研究室にはプライド設置を計画することで、室内環境を快適に過ごせるよう考慮している。	Q2 サービス性能 長期に建物を使用するにあたり、維持管理に配慮した計画、階高の確保等により建物の機能性を高めている。	Q3 室外環境 (敷地内) 屋上緑化を行い敷地内を積極的に緑化、暑熱環境に配慮している。	
LR1 エネルギー LED照明などの高効率な設備機器、制御を取り入れ、エネルギー消費の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル リサイクル建材を導入し、省資源に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 屋外照明の計画は、周囲への光害対策に配慮している。また、駐車駐輪に考慮し敷地内に十分なスペースを設け、利用者の利便性向上に努めている。	

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
- 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
- LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE® 横浜 | 評価結果 | 5-019

CASBEE横浜2022年版v.1.1

4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

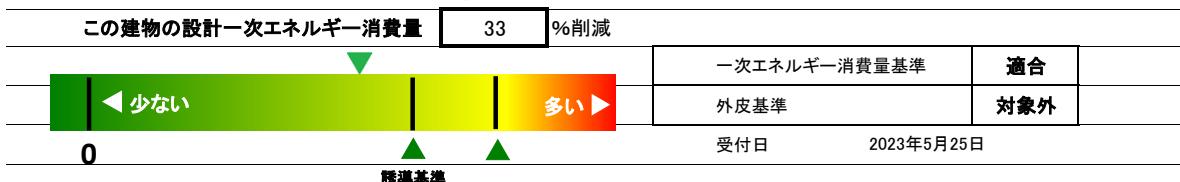
<非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 日本体育大学 横浜・健志台キャンパス 再開発整備（アカデミック・コア棟）

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **4**

■省エネルギー性能（国土交通省告示に基づく表示）



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①建物において最良の日射遮蔽性能、断熱性能を有している

②昼光利用として、建物内部に光庭を計画

③BEIが基準値を満たしている

④エネルギー消費量目標を設定、建築主へ報告している

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑨室内への熱の侵入に対して、最良の日射遮蔽性能、断熱性能を有し、湿度制御により快適性向上に配慮している

⑪F☆☆☆☆建材の採用、CO₂濃度の管理、校内は禁煙とする

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫建築物移動円滑化基準を満たす

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **4**

■耐用性・信頼性 (⑯耐震・免震 ⑰部品・部材の耐用年数向上 ⑱信頼性)

⑯重要度係数1.25、耐震クラスA以上

⑰ダクト、配管において、耐用年数の長い材料を採用

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境 ⑰まちなみ・景観 ⑱地域性への配慮)

⑰図書館、食堂、コンビニエリアの地域への開放、およびベンチや植栽などの計画を行い、利用者の憩いの場となるよう配慮した

太陽光発電などの導入 環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギー・マネジメントシステム以外)



太陽光利用

木材利用

エネルギー・マネジメントシステム導入

— —

CASBEE® 横浜 | 評価結果 | 5-019



CASBEE横浜2022年版v.1.1

日本体育大学 横浜・健志台キャンパス 再開発整備（アカデミック・コア棟）

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート 実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
記述項目		<非住宅> <集合住宅>		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	3.2
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.1
1 音環境				2.8	0.15	-	-	2.8
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音				2.6	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	-	-	-
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	-	-	-
3 床界遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.20	-	-	-
4 床界遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	-	-	-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-	-
2 溫熱環境				3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	健康・安心	3.0	0.60	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	⑤外皮性能	2.0	0.40	-	-	-
3 ゾーン別制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	5.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6
3.1 曜光利用				1.8	0.30	-	-	-
1 暁光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	1.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-	-	-
3 暁光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-
1 暁光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	-	3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	4.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	3.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	3.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	5.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	3.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.5
1 機能性				3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-	-
3 ハリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	4.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	3.0	0.50	-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	1.0	0.50	1.0	-	-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	-	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-	3.5
2.1 耐震・免震				3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性	防 災	⑯耐震・免震	-	4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防 災	⑯耐震・免震	-	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	2.0	0.25	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	3.0	0.13	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	4.0	0.13	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	5.0	0.25	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防 災	⑯部品・部材の耐用年数向上	-	3.0	0.25	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防 災	⑰信頼性	-	1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防 災	⑰信頼性	-	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防 災	⑰信頼性	-	4.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防 災	⑰信頼性	-	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防 災	⑰信頼性	-	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	-
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性				5.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	-
6 パックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2022年版v.1.1

日本体育大学 横浜・健志台キャンパス 再開発整備（アカデミック・コア棟）

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート	実施設計段階	重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
配慮項目		<非住宅> <集合住宅>						
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑪まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	4.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑬敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.3	0.50	-	-	-	3.6
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	4.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水			3.0	0.20	-	-	-	3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.40	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.60	-	-	-	-
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	-	-
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.33	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮			-	0.30	-	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち特に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-	-	-
2 朝日の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-
上記以外の重点項目								
<事務所用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-	-
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-	-